



教員に関する国際比較試論：チェコ、日本、イギリス（4）

著者	佐藤 雪野, ルーヂチカ リハルト
雑誌名	国際文化研究科論集
巻	12
ページ	139-147
発行年	2004-12-20
URL	http://hdl.handle.net/10097/48116

教員に関する国際比較試論

チェコ、日本、イギリス (4)

佐藤 雪野 リハルト・ルージチカ*

* カレル大学哲学部社会科学科

(前号より続く)

第6章 教員の持つ価値観

第2節 それぞれの価値観にみる各国教員の志向の共通性と相違性

前節では、各国の教員が人生において重要であると思う点(価値観)の序列について検討した¹⁶⁾。本節では、個別の価値観について、各国教員の共通点と相違点を検討したいと思う。

まず、仕事の独立性に関する評価であるが、チェコとイギリスの教員の考え方には大きな差が見られなかったが、日本の教員の考え方は、2カ国とかなり異なった結果が出た。図23に見られるように、他の2カ国と比べ、日本の教員はこの点に余り重きをおいていない。チェコの教員のうち、この点を「非常に重要」と考えたのが51.9%、イギリスでは40%いたが、日本では12.5%にすぎない。日本の教員にとっては、仕事において独立の決定を下すということは余り重要でないということになるが、これは日本社会において仕事をする場合、個人の論理より組織の論理が、より重視されるということを反映しているのであろうか。

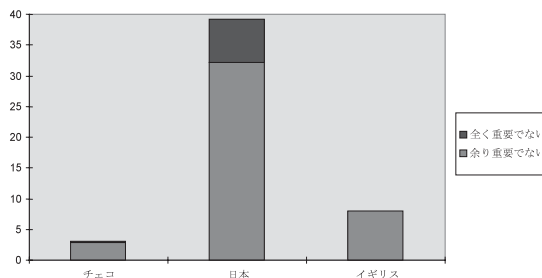


図23 自分の仕事について独立した決定を下すことができること(選択者の%)

教員という職業が、時間的自由のきく(仕事以外の活動をする余地のある)興味深い仕事であるという見方は、「自分の趣味を持ち、それに従事すること」という点に高い価値をおく教員の志向から生まれたものかもしれない。この価値観に関しては、各国の教員間の差が余り見られなかった。

「人々や社会の役に立つこと」という点も、各国教員が皆重視した価値観であるが、とりわけ、イギリスと日本の教員が、チェコの教員より重視した。

「できる限り高い教育や資格を得ること」という点では、各国教員の価値観に差が出た。図24に見られるように、この点に関して、日本やイギリスの教員は、チェコの教員に比べ、重要性を見出さない者が多い。この点を「非常に重要」としたイギリスの教員は、10.4%にすぎず、日本の教員は12.5%であったが、チェコの教員には45.3%もいた。これは、チェコの教員が、他の2カ国の教員より、上昇志向が強いと言うことを示しているのであろうか。あるいは、伝統的にチェコが資格社会であることを示しているのであろうか。それとも、政治的・経済的・社会的に大きな変動期にある社会主義崩壊後のチェコの不安定な状況を反映して、確実に自分の身につけ、よりよい将来を開くものとして、教育や資格に頼ろうとしているといえるのであろうか。

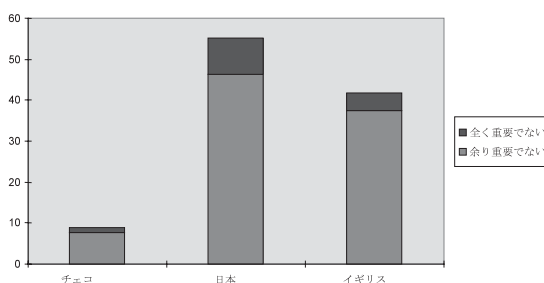


図24 できる限り高い教育や資格を得ること（選択者の%）

「静かな生活を送る」という点に関しては、チェコの教員においては女性教員が男性教員より重視する傾向がある。日本の教員は、逆に男性教員の方が女性教員よりも、この点を重視している。イギリスの教員は、この点は余り重視しておらず、66%以上が、この点を「重要でない（＝全く重要でない、余り重要でない）」としている。

「自分のキャリアにおいてトップまで上り詰めること」という点については、重視する序列においては、チェコとイギリスの教員に大きな差はないが（チェコの教員は7番目、イギリスの教員は8番目とした）、重視する度合いについては、図25に見るように、差が生じた。日本の教員は、この点をほとんど重視していない。

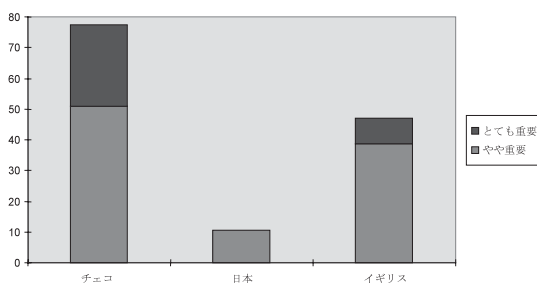


図25 自分のキャリアにおいてトップまで上り詰めること（選択者の%）

教員は、必ずしも自らの職業が世間から高く評価されているとは考えていないのだが、チェコの教員に見られる「野心」は注目に値する。それは、社会主義時代に、それ以前の社会システムが徐々に崩壊していき、生産性が下がっていったにもかかわらず、チェコの市民にとって労働の価値が下がったり、向上心が失われたわけではないということである。これは、社会主義時代末期の諸研究¹⁷⁾に示された結果を、実証するものであった。また、この考え方は、社会主義政権が崩壊した後の計画経済から市場経済への移行期におけるチェコの中小企業の起業家や大企業幹部にも共通して見られ¹⁸⁾、チェコの市場経済化にとって肯定的な役割を果たしたと類推できる¹⁹⁾。

しかし、価値観序列での順位は低いものの、チェコの教員においては、上述の野心や向上心とは矛盾するともいえる「簡素で儉約的生活を送ること」という点にも重要性を見いだしている。(図26参照)

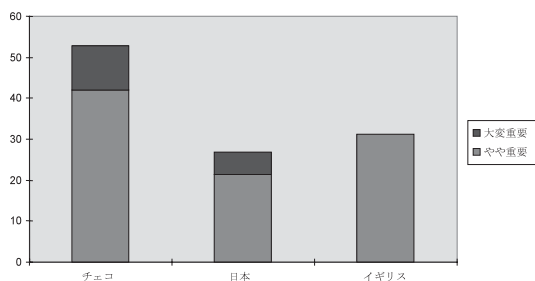


図26 簡素で儉約的生活を送ること（選択者の%）

また、図27に見られるように、起業については、イギリスの教員が他の2カ国に比べて、意欲的である。この点に関しては、アンケート第9問「企業家精神は学校にとって適切だと思いますか。」²⁰⁾の回答結果、図28とも比較する必要がある。図28からは、チェコの教員が、学校教育における企業家精神の必要性を一番考えていることがわかるが、イギリスの教員とはそれほど差がない。日本の教員は、3カ国の中で一番、企業家精神を不要であると考えている。教育の場に、営利的な考え方を持ち込むことに対して、日本の教員に抵抗感が強いことを反映しているであろう。

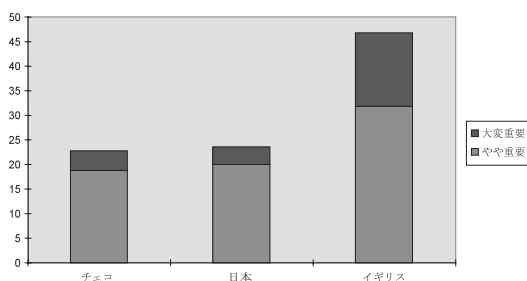


図27 自分の事業を興す機会を持つこと（選択者の%）

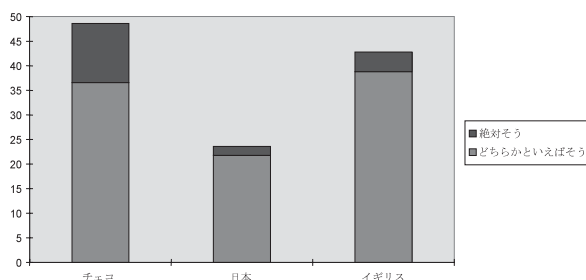


図28 企業家精神は学校にとって適切だと思いますか（選択者の％）

各国別の価値観の評価を以下の図29～31にまとめてみた²¹⁾。この3つの図を比較してみると、日本の教員は、「大変重要」や「全く重要でない」という極端な選択肢を選ばない傾向が、他の2カ国より強い。日本人が中庸を好むというイメージに合った結果である。

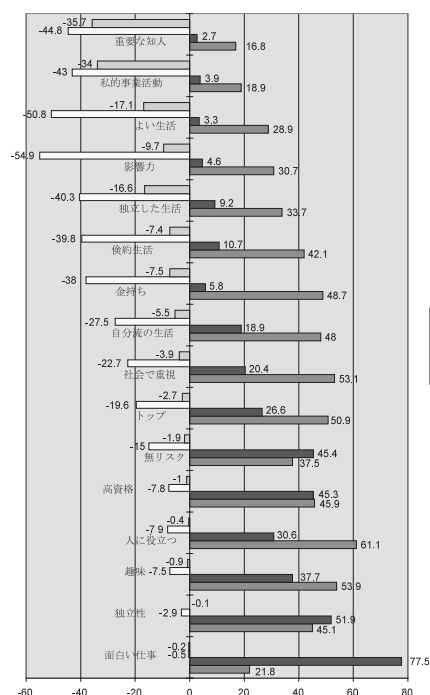


図29 チェコ：価値観（％）

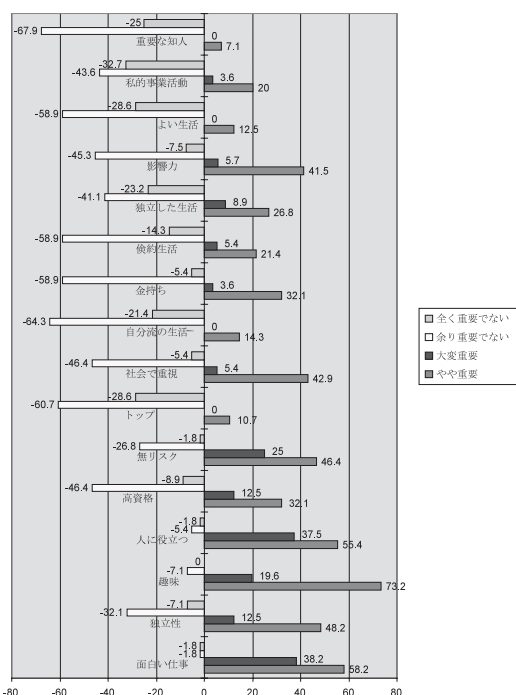


図30 日本：価値観（％）

更に3カ国の教員の価値観を比較するために、「大変重要」を+2、「やや重要」を+1、「余り重要でない」を-1、「全く重要でない」を-2として、各国の回答者の割合にかけた数字が表11である。ここで現れる結果は、必ずしもこれまで述べてきた結果と一致するわけではない²²⁾。概して、日本の教員は、これらの価値観項目に否定的な見方をしているのであるが、もっとも特徴的であるのは、日本の教員は、その分野でトップになるということにかなり否定的なことである。それ

に対して、チェコやイギリスの教員はこの点を非常に重視している。日本の教育における結果平等的な考え方が、日本の教員の間に普及した考え方であるといえる点が注目される。

更に高い資格をとることや金銭的に豊かになることに関しても日本の教員のみが否定的である。また、他の2カ国の教員同様、肯定的にとらえているものの、仕事の独立性を重視する度合いが、日本の教員の場合、低い。全体に日本の教員は、他人から突出することを好まないようである。これは、教員に限らず、日本人の「国民性」と指摘されることが多い「集団主義」の表れともいえる。

チェコの教員の価値観で、他の2カ国の教員と大きく異なっているのは、質素で儉約的な生活を重視しているところである。社会主義時代の必ずしも経済的に豊かでない生活を経験しているからであろうか。日本の教員が、儉約を重視しないにもかかわらず、金銭的豊かさも重視していないことは興味深い。そもそも経済的な項目を重視していないということかもしれない。日本の教員には、金銭的なことを考えることは、「教育的でない」「下品」という感覚がありそうである。

イギリスの教員で際だっているのは、他の2カ国の教員が否定的にみている、独立した生活を送ることを肯定的にみていること、逆に他の2カ国の教員が肯定的に見ているリスクのない生活を送ることを否定的にみていることである。また、他の2カ国同様、否定的に見ているものの、自分の事業を興すことに関する抵抗感が小さい。

本章の検討から、保守的・集団主義的な日

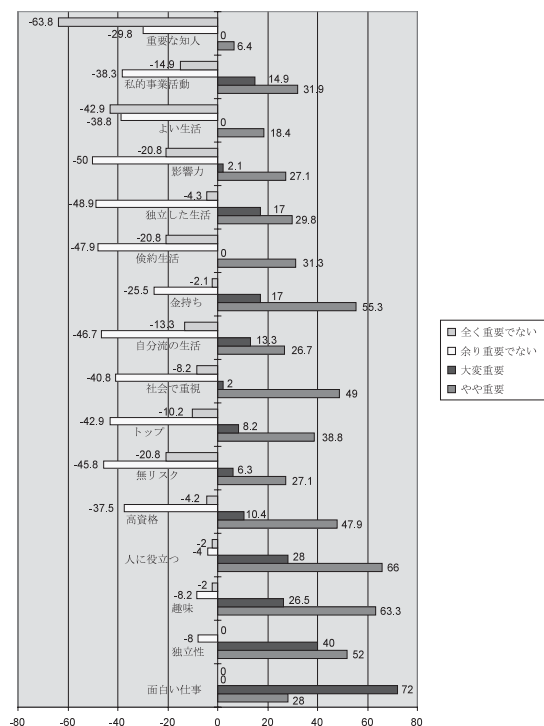


図31 イギリス：価値観（％）

表11 図29～31の項目の指数

図29～31の項目	チェコ	日本	イギリス
重要な知人	- 94	- 110.8	- 151
私的事業活動	- 84.3	- 81.8	- 6.4
よい生活	- 49.5	- 103.6	- 106.2
影響力	- 34.4	- 7.4	- 60.3
独立した生活	- 21.4	- 55.3	6.3
儉約生活	8.9	- 60.7	- 58.2
金持ち	7.3	- 11.6	59.6
自分流の生活	21.8	- 92.8	- 20
社会で重視	63.4	- 3.5	- 4.2
トップ	79.1	- 107.2	114
無リスク	109.5	66	- 47.7
高資格	126.7	- 7.1	22.8
人に役立つ	113.6	121.4	114
趣味	120	105.3	104.6
独立性	145.8	26.9	124
面白い仕事	175.9	129.2	172

本の教員、上昇志向の強いチェコの教員、自立・独立性の強いイギリスの教員像が浮かんでくる。これらは、歴史的背景・現在の種々の社会的状況から影響を受けた広い意味での「国民性」と、各国の教育システムなどに関わっている。それに対して、「人々の役に立つ」などの価値は、教育者の持つ普遍的な価値であるといえる。

終章 今後の展望

第2章の教育の目的に関する各国の教員の考えの共通点と相違点、前章で検討した教員の持つ価値観の共通点と相違点から、「国民性」や教育システムの違いによる教員像の相違点と、教育者としての共通性が明らかになった。

さらに、教員の意識に表れる各国の「国民性」や、「国民性」を超えた教員集団の独自性を更に検討するため、大学教員も調査対象に含めた比較調査、教員養成系学生の比較調査を開始した²³⁾。前者の調査は、教員を教育した人々の考え方を検討するため、後者の調査は、将来の教員像を探るためである。

(終)²⁴⁾

¹⁶⁾ 表 6 参照。

¹⁷⁾ 代表的な研究として、Linhart, J. a kol., *Prognóza sociálního rozvoje československé společnosti* (チェコスロヴァキア社会の社会的発展予測), Praha, 1988 .

¹⁸⁾ 拙稿 Ruzicka, R., "Small Entrepreneurs in the Society of Employees", in : H. Brezinski & M. Fritsch (eds.), *The Economic Impact of New Firms in Post-Communist Countries*, Cheltenham, 1996を参照のこと。

¹⁹⁾ その他、拙稿 Ruzicka, R., " Škola a životní hodnoty v optice ekonomických proměn (経済変容の観点から見た学校と人生の価値)", in : M. Hradecná a kol., *Vybrané problémy sociálně pedagogiky* (教育社会学における諸問題), Praha, 1995, idem., " Podnikatelská kultura a veřejnost (企業文化と公衆)", in : J. Vlácil a kol., *Organizační kultura v českém průmyslu* (チェコ産業における組織文化), Praha, 1997などを参照のこと。

²⁰⁾ 表 9 参照。

²¹⁾ 図29～31の項目とアンケートの質問項目の対照は表10参照。

²²⁾ データ処理方法の違いによる。

²³⁾ チェコでのアンケート調査は実施済みである。

²⁴⁾ 表12、13として、自由記述が少なかったため、本稿で検討できなかった、アンケートの質問項目を紹介する。

表 9 日本向けアンケート質問紙 (第 9 問)

第 9 問 企業家精神は学校にとって適切だと思いますか。

絶対違う	どちらかといえば違う	わからない	どちらかといえばそうである	絶対そうである
------	------------	-------	---------------	---------

表6 各国教員の価値観序列（1が最大、16が最小、網掛けは各国間で同順位）

* 前号177ページの差し替え（網掛けの修正）

価値観	チェコ	日本	イギリス
興味深い仕事を持つこと	1	1	1
自分の仕事について独立した決定を下すことができること	2	5	3
自分の趣味を持ち、それに従事すること	3	3	4
人々や社会の役に立つこと	4	2	2
できる限り高い教育や資格を得ること	5	8	6
リスクやストレスのない静かな生活を送ること	6	4	12
自分のキャリアにおいてトップまで上り詰めること	7	15	8
社会から重視されること	8	6	7
他人にとっての意味を考えず、自分の原理に従うこと	9	13	11
十分なお金を持ち、裕福に暮らすこと	10	9	5
簡素で儉約的生活を送ること	11	11	13
社会や他人から独立して自分のために生きること	12	10	10
公的生活に置いて影響を持つこと	13	7	14
他人より高い地位につき、よい生活を送ること	14	14	15
自分の事業を興す機会を持つこと	15	12	9
高い地位の知り合いがいること	16	16	16

表10 図29～31の項目と表6の項目の対照表

図29～31の項目	表6の項目
重要な知人	高い地位の知り合いがいること
私的事業活動	自分の事業を興す機会を持つこと
よい生活	他人より高い地位につき、よい生活を送ること
影響力	公的生活に置いて影響を持つこと
独立した生活	社会や他人から独立して自分のために生きること
儉約生活	簡素で儉約的生活を送ること
金持ち	十分なお金を持ち、裕福に暮らすこと
自分流の生活	他人にとっての意味を考えず、自分の原理に従うこと
社会で重視	社会から重視されること
トップ	自分のキャリアにおいてトップまで上り詰めること
無リスク	リスクやストレスのない静かな生活を送ること
高資格	できる限り高い教育や資格を得ること
人に役立つ	人々や社会の役に立つこと
趣味	自分の趣味を持ち、それに従事すること
独立性	自分の仕事について独立した決定を下すことができること
面白い仕事	興味深い仕事を持つこと

表12 日本向けアンケート質問紙（第3問）

第3問 a) 校長先生の様々な仕事の割合は基本的にどうなっていますか。あなたの評価で、総計が100%になるように割合を記入してください。

A	教育や学校運営のための創造的仕事	学校課程に関する日常的仕事	授業そのもの	企業的性格の学校経営	地域社会のための公的活動など	
						100%

b) それでは、あなたのご意見では、校長先生の仕事の理想的な割合はどうなりますか。

B	教育や学校運営のための創造的仕事	学校課程に関する日常的仕事	授業そのもの	企業的性格の学校経営	地域社会のための公的活動など	
						100%

第4問 今度はあなたご自身の仕事の割合を判断してください。

a) あなた現在の仕事：

A	教育や学校運営のための創造的仕事	学校課程に関する日常的仕事	授業そのもの	企業的性格の学校経営	地域社会のための公的活動など	
						100%

b) あなたのお仕事の理想的な割合はどうなりますか。

B	教育や学校運営のための創造的仕事	学校課程に関する日常的仕事	授業そのもの	企業的性格の学校経営	地域社会のための公的活動など	
						100%

表13 日本向けアンケート質問紙（第7問）

第7問 社会は、そのメンバーが安定と同時に変化を求める組織です。

- a) 卒業生の将来の雇用者や公衆からの、現在の重大な要請に答えるために、あなたのお勤めの種類の学校がまず行うべきことは何だとお考えですか。

.....

- b) 政府や公衆双方が、あなたのお勤めの種類の学校における教育的、経済的、社会的効率を改善するための援助として、まず行うべきことは何だとお考えですか。

.....

- c) 学校や社会の変化に適切に反応するために、あなたやあなたの同僚が、一番よく直面する主要な問題は何ですか。

.....